

英国の鉄道におけるコロナ禍の 運賃値上げ



こやくまる さちこ
小役丸 幸子
交通経済研究所主幹研究員

英国の鉄道運賃は毎年値上げを行っている。近年は物価上昇率範囲内の値上げにとどまっていたが、2021年は新型コロナウイルスの影響を受け、8年ぶりに物価上昇率を上回る値上げが行われることになった。本稿では、コロナ禍における英国の鉄道運賃の値上げについて取り上げる。

コロナ禍における英国の鉄道の状況

世界的に新型コロナウイルスが猛威を振るう中、英国においても同ウイルスの影響により、2020年3月以来、3度のロックダウンが実施されている（2021年2月1日現在）。このため、鉄道の利用者は激減した（図1）。

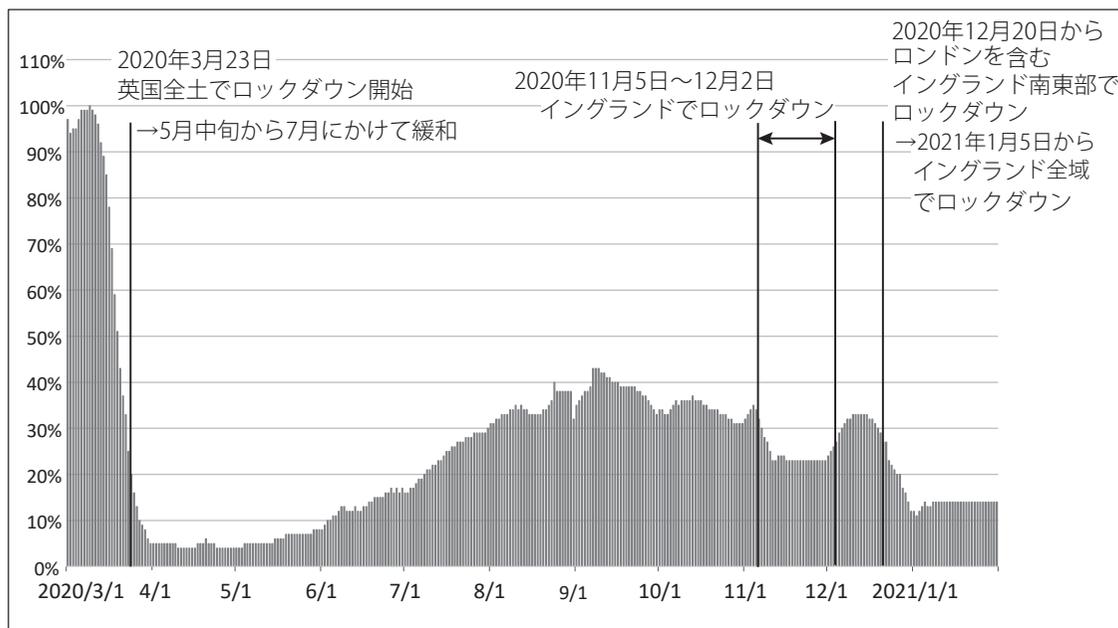
英国では1993年の鉄道改革に伴い国鉄が民営化され、旅客輸送部門は方面・地域別または線区別に当時25の旅客列車運行会社（Train Operating Company：TOC）に分割の上、フランチャイズ制度が導入された。フランチャイズ制度では各TOCの運営事業者を決めるための競争入札が実施され、TOCごとに、運営事業者とフランチャイズ監督機関（運輸省、一部TOCは地域

の交通主管部）との間で、当該TOCの運営に関してフランチャイズ契約（Franchise Agreement）が結ばれた。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大による鉄道利用者の減少を受け、TOCの経営悪化が見込まれたため、2020年3月、通常のフランチャイズ契約を一時凍結し、各TOCと運輸省の間で緊急事態措置協定（Emergency Measures Agreements：EMA）を締結した。EMAでは、TOCが安定して運営できるよう、一定の運営費用が国からTOCに支払われた。その後、2020年9月には、フランチャイズ制度を廃止することが発表された。これにより、TOCと運輸省の契約が、EMAから緊急事態回復措置協定（Emergency Recovery Measures Agreements：ERMA）に変更となり、原則として、各TOCはERMAに基づき、所定の期間、運営を行うことになっている。

このような状況を背景に、コロナ禍における2021年の運賃値上げが従来とはやや異なる形で行われた。

図1 英国の鉄道利用者の推移 (2020年3月1日~2021年1月31日)



注) 対前年同日比

出典 : Department for Transport, 'Use of transport modes: Great Britain, since 1 March 2020', 17 February 2021

プライスカップ規制

2021年の運賃値上げについて述べる前に、英国の鉄道運賃にかかる規制、プライスカップについて概要を説明する。

プライスカップとは運賃の値上げ率に上限(キャップ)を設定するものであり、物価上昇率(小売物価上昇率 Retail Price Index: RPI)からX(生産性向上・事業効率化目標率)を差し引いた「RPI-X」の式で表される。国は1996年1月から一部の運

賃について価格上限規制(プライスカップ)の適用を始めた。プライスカップを導入することにより、TOCの生産性の向上や経営の効率化が期待される。

これまでのプライスカップは表1の通りである。Xの値は数年ごとに見直しが行われるが、その時の情勢に鑑み、政治的な判断で国が決める。本来は物価上昇率以下に運賃値上げ率を抑えることが目的であるため、 $X \leq 0$ とすることが理想である。一方で、2000年以降、TOCへの補助金

表1 英国の鉄道運賃のプライスカップ

1996年~1998年	RPI ± 0%
1999年~2003年	RPI - 1%
2004年~2013年	RPI + 1%
2014年~2020年	RPI ± 0%

(鉄道運賃のプライスカップの算出には、運賃改定年の前年7月のRPIを基準値として用いる。)

出典 : Strategic Rail Authority 及び Department for Transport 各プレスリリース

表 2 主な鉄道運賃種別とプライスカップ規制の適用有無

運賃	内容	プライスカップ規制	
		適用あり	適用なし
Anytime	長距離区間で設定される利用制約のない運賃。片道きっぷの場合は券面記載日から2日間有効。往復きっぷの場合、往路は券面記載日から5日間、復路は1か月間有効。		○
Anytime Day	近距離区間で設定される利用制約のない運賃。券面記載日のみ有効。	○	
Off-Peak/Super Off-Peak	ピーク時間帯には利用できないが、Anytime より安く設定されている。 ^{注)}	○	
Advance	長距離区間で設定されている事前購入運賃。キャンセルなど利用の際に制約がある。		○
Season	定期券	○	
First class	ファーストクラスの運賃		○

注) 一般的に、Off-Peak は月曜から金曜の9:30～16:00及び19:00以降、また、Super Off-Peak は月曜～金曜の10:00～15:30及び19:15以降に利用可能とされているが、TOCや利用区間・駅によって利用できる時間帯は異なる。なお、次は価格の一例である。

例：ロンドン→バーミンガム（ロンドン11:50発、片道）の場合

- ・ Anytime 92.0 ポンド (13,184 円)
- ・ Off-Peak 40.8 ポンド (5,847 円)
- ・ Super Off-Peak 25.9 ポンド (3,711 円)

出典：House of Commons Library, Rail fares, ticketing & prospects for reform, Number CBP8522, 24 April 2019, Department for Transport, Rail fares and ticketing review: Initial consultation, March 2012

が増加する傾向にあった。そこで、納税者が負担することになる補助金を削減し、その分を鉄道利用者負担とするため、2004年からはRPI+1という物価上昇率を上回るプライスカップが設定された。

また、規制の対象となる運賃を表2に示した。プライスカップは、近距離区間で日常的に利用される運賃や定期券に適用される。日常的に利用される運賃は値上げを抑制するためプライスカップ規制の対象としているが、長距離の正規運賃に相当するAnytimeや事前購入割引のAdvanceは他のTOCや交通機関との競争下にあるため、規制の対象となっていない。

2021年の運賃値上げ

通常、英国の鉄道運賃の値上げは1月に実施され、その発表は前年の10～11月に行われる。

しかし、2021年の運賃値上げは年末押し迫る2020年12月16日に発表された。決定が遅れた理由は新型コロナウイルスである。この問題がなければ、2021年の運賃についても、プライスカップはRPI±0%となることが想定されており、物価上昇率内での値上げとなる見込みであった。しかし、新型コロナウイルスの影響を受けて、人々の生活が厳しい状況にある中、物価上昇率内どころか、値上げそのものを批判する声上がる一方で、運賃収入を少しでも増やすためプライスカップの値をRPI+1%にする案も浮上し、議論に時間を要した。

最終的に、鉄道利用者及び納税者それぞれの負担のバランスを考慮し、プライスカップ規制下にある運賃の2021年における値上げ率の上限はRPI+1%に決定した。これにより、RPI上昇率が1.6%であったため、プライスカップの値

は2.6%となった。なお、RPIよりも1%高い値上げ率となるが、基準となるRPI上昇率そのものが低かったため、結果として、2021年のプライスキャップ値は2017年以降では最低となっている。運賃改定時期は例年より2か月遅く、2021年3月1日の実施と決まった。

運賃値上げそれ自体は毎年行っているものであり、TOCの運営上やむをえないが、コロナ禍でそもそも鉄道の利用を控えざるをえない中、RPI+1%の値上げが行われることにより、さらに鉄道の利用を遠ざける結果になることが懸念される。

そのような事態を意識しているのか、これまで1月に実施されていた値上げが2021年は3月となるため、運輸省は、3月までであれば値上げ前の安い価格で定期券等を購入できることを利用者にアピールしている。

今後に向けて

2021年の運賃は決まったが、英国では新型コロナウイルスによる感染拡大とそれに伴うロックダウンが続く中、鉄道の利用者が増加する糸口が見つからない。とりわけ、鉄道利用者が減少した理由のひとつがテレワークである。もともと非正規雇用の労働者が増えて週5日の通勤需要が減少していたが、新型コロナウイルスでテレワークが促進されたことにより、通勤用に従来のような定期券を購入する必要性が薄れつつある。

そこで、運輸省は、通勤スタイルの変化に合わせた新たなきっぷを作り出すことをTOCに求めている。キーワードとなるのはフレキシブルな定期券や回数券タイプのきっぷである。それを受けて、たとえば、ロンドン～ロンドン南西部及びウェールズが運行エリアとなるグレート・ウェスタンでは、7日間のうち3日あるいは28日間のうち12日利用できるといった形のきっぷが検討

されている。また、マンチェスターやリーズ、ニューカッスルなどイングランド北部で運行するノーザンでは、ICカードで利用できる回数券（6か月間のうちに10回利用可。価格は9回分）について、一部区間で実証実験を行っているとされている。

我が国においても、新型コロナウイルスの終息の見通しが立たない中、通勤や旅行のあり方や意識が変化していることに伴い、すでに各交通事業者で様々な施策が検討されている。日本と同様に、これまでとは異なる生活に適した運賃をどうすべきか、英国でも模索が続けられている。